

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)		*	*
		商店街（代表者）	・これから春が訪れて暖かくなるため、4月が低迷したことの反動もあり、来客数の回復が期待できる。
		商店街（代表者）	・中心市街地の活性化の取組が徐々に前進しているなか、外国人観光客を始めとした観光客の動きが活発になってきている。また、郊外に住む市民が中心部を訪れる頻度が高くなっていく時期でもあるため、業種全般にわたり売上を伸ばすことになる。
		商店街（代表者）	・観光のオンシーズンに向かうことになるため、今後についてはやや良くなる。
		商店街（代表者）	・突出した売上はみられないが、安定した売上で推移していることから、今後の景気はやや良くなる。百貨店では、依然として外国人観光客による高額商材の購入もあり、売上が好調であるが、一般店ではそれほどの効果はみられない。ただ、外国人観光客の購入品には変化がみられるようになっており、店舗での対応力が問われ始めている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・観光客の多い地域に立地していることもあり、当店の売上は伸びており、今後も期待できる。ただ、会社関係の会合に出ると、給料格差の影響で都市圏に移る若者が多く、求人費の負担が大きくなってきているというため息がよく聞かれる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・外国人観光客の消費意欲は今後も高いまま推移することになる。満席の海外便も多く、観光客数が増加傾向にあることもプラスである。一方、国内客は少しずつ買物の仕方が上向いている。購入点数が増えてきているほか、客単価も高めになってきており、せっかくの旅行の機会にお金を使おうというハレの日の消費意欲が高まってきている。
		百貨店（販売促進担当）	・気温の上昇とともに衣料品の販売量が増えている。客単価も上昇傾向にある。この傾向はしばらく続くことが見込まれ、購買客数が横ばいで推移すれば、今後も全体売上のプラス傾向が持続する。
		百貨店（営業販促担当）	・今後については、店舗の部分改装により、食品部門、アウトドア部門の強化が図られるため、客足の改善が見込まれる。来客数が増加すれば、雑貨や衣料などの商材にも好影響を及ぼすことが期待できる。周辺地域の開発が進んでいることもプラスである。
		スーパー（店長）	・婦人衣料を中心にアパレル部門がやや上向き傾向にあることから、今後の景気はやや良くなる。
		スーパー（役員）	・北海道新幹線の札幌延伸を見据えたホテル建設が始まっているなど、工事関係の仕事が増えている。また、ホテル従業員の新規雇用なども見込み、地域経済の活性化が期待できる。
		コンビニ（エリア担当）	・ここ数か月、来客数が回復傾向にあることに加えて、周辺で公共事業の予定があることから、今後についてはやや良くなる。
		衣料品専門店（店長）	・来客数が回復してきており、客単価も購入点数も伸びを示していることから、今後についても期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・5月以降、新型車効果が見込めることから、今後についてはやや良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・国内からの団体旅行の予約が平日の稼働を押し上げ、好調に推移していることから、今後についてはやや良くなる。7月にドーム球場で大型エンターテインメントが開催されることもプラスとなる。
	旅行代理店（従業員）	・観光需要については、春から初夏にかけて芝桜やチューリップなどの花観光が盛んになり、夏場のピークシーズンにつながっていくことになる。特に今年はチャーター便利用の国内ツアーの予定が組まれていることもあり、新規客による需要増加が期待されている。	
	通信会社（企画担当）	・今後は、客に対して通信サービスを販売するだけでなく、客の生活を豊かにすることを念頭に置いた接客にシフトする予定であることから、客からの信頼を得ることで顧客の流出減少につながることを期待できる。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・開花の季節とともに観光客が増加することが期待できる。	
	住宅販売会社（経営者）	・株式市場が堅調に推移していることから、今後の景気は徐々に回復してくるようになる。ただ、政局の動向だけが不安要因である。	

百貨店（売場主任）	・高額商材の売行きは好調に推移するとみられるが、米中の貿易摩擦が激しさを増していることから、世界的な景気減退につながるリスクがあり、景気は変わらないまま推移する。
百貨店（担当者）	・必要な物にはお金をかけるという動きがみられるなか、商品単価が上がっているものの、客単価自体は高止まりしている。来客数も現状維持での推移が見込まれるため、今後も景気は変わらない。
百貨店（役員）	・来客数や売上の動きから、今後も景気は変わらないまま推移する。
スーパー（店長）	・原材料高騰に伴う値上げがみられるなか、消費者の節約志向が強く、今後も景気は変わらないまま推移する。
スーパー（店長）	・景気が変わるような要因が見当たらないため、今後も変わらない。
スーパー（企画担当）	・はっきりとした理由は分からないが、景気が良くなるような動きが全く感じられない。
スーパー（企画担当）	・金利や為替などの世界的な金融情勢が、国内の経済情勢に与える影響が大きくなっているなか、将来不安の高まりから、消費者の財布のひもが簡単に緩む状況にはなく、今後も現在の景況感とそう大きく変わらないまま推移する。
スーパー（役員）	・ローカル地域で少子高齢化が進行している現況下において、小売業では生き残りのために業態を超えた競争が行われており、今後も価格競争が続くことで、厳しい状況が一層強まることになる。こうしたなかで景気が上向くことは期待できない。
コンビニ（エリア担当）	・以前と比較すれば景気は回復傾向にあるが、これから夏場に向けては天候面に左右されることになる。ただ、現時点では来客数の動向に影響を与えるような長期予報は出ておらず、ほかに景気のよしあしを左右するような具体的な要因も見当たらないため、今後も景気は変わらない。
コンビニ（店長）	・景気が良くなる要因が見当たらないため、今後も変わらない。
家電量販店（経営者）	・引き続き家電業界においては厳しい状況で推移する。
家電量販店（店員）	・季節感のメリハリが出てくることで、夏物商材がよく動くことを期待している。
乗用車販売店（経営者）	・当社及び新車市場共、新型車効果のあった前年よりも低い水準で推移しており、この傾向は当面続く。
乗用車販売店（経営者）	・新型車の導入予定もなく、サービスの対象台数の減少傾向もしばらく続くことが見込まれるため、今後も現状維持が続く。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・軽医療業界の先行きが不透明になってきている。顧客開拓も地道なアプローチしか道がない。
高級レストラン（経営者）	・これ以上景気が良くなることはないが、これから夏に向かって人出や観光客が多くなってくるため、飲食店としては景気の良い状態が夏まで続く。
高級レストラン（スタッフ）	・5月以降、中心部での食イベントが増えるため、近隣のレストラン、飲食店では売上が伸び悩むことになる。景気が上向いていない状況では、周囲にも恩恵を与えるような催事が望まれる。
旅行代理店（従業員）	・建設関係からの発注状況が好調であり、農業も順調な天候が見込まれるため、このまま好調を維持することになる。
旅行代理店（従業員）	・今後に向けて特に大きなトピックスがないため、景気は変わらないまま推移する。
旅行代理店（従業員）	・先行きに明るい材料がないため、今後も景気は変わらない。
タクシー運転手	・タクシーの利用は天候に左右される面が大きく、これから天候の良い時期となることから、4月と変わらないまま推移する。
タクシー運転手	・今後については、夏場に若干の動きが出てくるとみられるが、余り期待を持ってない。ただ、当業界は全体的な景気に左右されやすいため、景気回復の動きが出てくれば、当然売上も上向いてくることになる。
タクシー運転手	・需要が増加傾向にあるものの、乗務員不足が大きな課題となっているため、今後も景気は変わらない。
通信会社（社員）	・特筆されるような新商材などもないため、景気が上向く要素が見当たらない。
観光名所（従業員）	・当地における観光入込について、プラス要素もマイナス要素も見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
観光名所（職員）	・外国人観光客を中心に引き続き堅調に推移しているため、今後も景気は変わらない。
美容室（経営者）	・数か月間、来客数及び売上がほぼ同じような数字で推移していることから、今後も大きな変化は起こらない。

	商店街（代表者）	・4月の景気はやや良くなっていたが、夏には一旦動きが落ち着くとみられる。	
	スーパー（店長）	・今後については、5月初めから9月初め頃まで、周辺の道路において通行止めの予定があるなど、店舗までの交通状況が悪くなるため、売上が相当落ち込むことが懸念される。	
	コンビニ（エリア担当）	・現在、景気が悪くなっている原因が明確でないため、今後も景気は悪いままで推移することになる。	
	コンビニ（エリア担当）	・地域の人口増加が見込めないため、今後の景気はやや悪くなる。	
	衣料品専門店（店長）	・年間を通して売上が前年を下回っている状況であるため、今後の景気はやや悪くなる。	
	乗用車販売店（従業員）	・これから夏枯れに向かう時期となるため、客の来場の動きが鈍り、販売台数もやや落ち込み、厳しい状況となる。ただ、新型車が7～8月に導入されるため、9月の決算期に向けては盛り上がってくることが期待できる。	
	乗用車販売店（従業員）	・例年、売上が減少傾向となる時期であり、今後については販売量の減少が見込まれる。	
	自動車備品販売店（店長）	・業界では、今期の夏タイヤの販売見込みについて98%程度とみられており、4月の夏タイヤ販売が好調だったことを考慮すると、5月以降の減少が見込まれ、売上也に影響することを懸念している。	
	旅行代理店（従業員）	・景気が良くなる要素が見当たらない。	
	タクシー運転手	・観光客の問合せ件数や予約件数がやや減少しているため、今後についてはやや悪くなる。	
	タクシー運転手	・例年、4月以降は閑散期となるが、今年は乗務員不足の影響が顕在化することが懸念される。	
	美容室（経営者）	・消費税増税に向けての議論が本格化することで、低価格店に流れる客が出てくることを懸念している。	
	住宅販売会社（経営者）	・ここに来て建築価格が一段と上昇しており、それに伴い分譲マンションの価格も高騰してきている。このため、分譲マンションの需要がかなり縮小しており、今後の景気はやや悪くなる。	
	×	高級レストラン（スタッフ）	・来客数の回復傾向がみられないことから、今後については悪くなる。地域全体の活気がなくなっていることもマイナスである。
	×	スナック（経営者）	・これからゴールデンウィークを迎えるが、今後に向けての不安要素が数多くあるため、客足が遠のくことが懸念される。
	×	観光型ホテル（役員）	・これからグリーンシーズンを迎えるが、ガソリンの高騰がマイナス要因となる。また、今後、朝鮮半島の融和が進み、韓国と北朝鮮、中国の関係が改善することで、日本との関係が相対的に悪化し、韓国からの外国人観光客が大きく減少することが懸念される。
	×	タクシー運転手	・年度売上が3年連続での微減となるなど、新年度に向けての明るい材料がない。
企業 動向 関連	-	-	
(北海道)	食料品製造業（従業員）	・前年から高騰していた原材料であるキャベツとタマネギの価格が落ち着いてきているため、今後の景気はやや良くなる。	
	建設業（経営者）	・今後については、土木、建築、官民共に受注が進み、稼働が上がってくる。盆明けまでは人や機械の不足感もない。ただし、土木については一昨年の災害復旧工事がほぼ終了したため、前年と比べると予算も工事量も10%ほどの減少が見込まれるなど、低調感がある。	
	建設業（役員）	・新年度前半は繰越し工事と新規受注工事が堅調なことから、完工高の積み上がりペースが好調に推移することが見込まれる。ただし、公共土木工事のピークアウトとなる年度後半以降は受注環境が厳しくなるとの見通しが高まりつつある。	
	輸送業（支店長）	・物流量が極端に増加するような期待はないが、受注価格の改定が一層進む見込みがあるため、収支面の改善が期待できる。	
	通信業（営業担当）	・先々の需要動向が堅調であり、それほど増加幅は大きくはないものの、売上が増加傾向にあることから、今後の景気はやや良くなる。	

	金融業（従業員）	・各種調査によると今春の賃上げが前年を上回る見込みであることから、力強さを欠く個人消費に持ち直しの動きが強まることを期待している。また、外国人観光客による消費もしこり効果により引き続き堅調な推移が見込まれる。一方、これまで道内景気をけん引してきた公共投資は減速が見込まれる。今後については、急激な原油高などが進まない限り、道内景気は3か月前に比べてやや良くなる。
	コピーサービス業（従業員）	・これから売上が伸びるとみている客先が多いことから、今後についてはやや良くなる。
	食料品製造業（従業員）	・売上が増加する要因が見当たらないため、今後も景気は変わらない。
	家具製造業（経営者）	・2020年の東京オリンピック開催に向けての期待感があるが、公共施設、ホテルなどにおいては家具需要にまだ本格的な動きはみられない。一方、為替が円安に振れていることで輸出については追い風となっている。
	建設業（従業員）	・道内の大型建築工事も一段落を迎えている。地元球団の球場建設、北海道新幹線の札幌延伸に伴う駅舎の拡張工事など、話題は豊富であるが、建設業の景気に反映されるまではもうしばらく時間が掛かる。
	輸送業（営業担当）	・本州向けの生乳の輸送量が増えているが、農作物は一昨年の不作の影響で在庫が余りなく、倉庫に一定期間保管されることが少なくなっているため、今後も景気は変わらない。
	司法書士	・今後については、時期的に建物の建築や土地取引が若干上向きで推移するが、その後も上向き傾向が持続し、景気の良い状態になることまでは期待できない。
	司法書士	・国会が不正常的な状態が続いており、景気回復の政策も目に見える状況になく、景気が良くなる要素がない。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・夏頃までは今の状況が続くことになる。
	司法書士	・建築業者において建物の新築、増築の動きがみられないため、今後の景気はやや悪くなる。廃業の数が増えていることもマイナスである。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・現在の受注量減少の影響が、2～3か月後に顕著に表れてくることを懸念している。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・売上の見込み数値をみると、今後について景気が悪くなる予測が出ている。また、大きな工事物件などの情報はあつものの、活況を迎えるのはまだ先になりそうである。
	x	-
雇用 関連 (北海道)	人材派遣会社（社員）	・流通系では、業績が好調であることから販促費を潤沢に活用する企業姿勢がうかがえ、これから夏に向けて売上拡大を目指し、人材ニーズが高まることになる。中途採用についても業績が好調なことから、人員確保に向けて積極的な採用活動が行われることが期待できる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・北海道の観光シーズンの本格化と国際線の増便などで外国人観光客による経済効果が期待できる。宿泊業を始め、小売業、サービス業での求人増加が見込まれる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・基幹産業である農業が今年も好調であるという情報が多く聞かれることから、今後の景気はやや上向きで推移する。
	学校〔大学〕（就職担当）	・道内大手企業では6月までに新卒採用枠を充足するため、現在の活動量を維持したまま推移する。一方、学生の注目度の低い中小企業は10月までは採用活動を継続することが見込まれる。そのため、今後しばらくは上向きのまま推移する。各企業が当面の景気を良い方向で捉えていることが、新卒をしっかりと確保したいという状況につながっている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・現実的な問題として、人材不足によるサービスの低下が各企業で懸念されている。募集しても人が来ないため、売上が多少下がっても現状のスタッフで対応するしかないとの声が増え始めている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・人材は確保したいが、待遇改善などで人件費を上げたくないと考える企業が多いため、今後も景気は変わらない。
	職業安定所（職員）	・月間有効求職者数が前年を下回り、月間有効求人数が前年を上回る傾向が今後も続く。
	職業安定所（職員）	・全国的なイカの不漁による価格高騰の影響でイカなどを原料とする食料品製造業の業況に不安がある。
	職業安定所（職員）	・3月の有効求人倍率が5か月連続で前年を上回っており、業種によっては人手不足の状況が深刻化している。

	職業安定所（職員）	・新たな企業進出や大量雇用の情報はないものの、大型の雇用調整などの情報もないことから、今後については大きな変更はないまま推移する。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・ゴールデンウィーク期間中の求人申込みは例年を上回る件数だが、求人を控える最近の傾向に変化がみられないため、ゴールデンウィーク後には求人の動きが再度落ち着くことになる。
x	-	-